

鳥インフルエンザ連続発生

松崎県議 防除作業の県職員ら激励

知事とともに現地訪れ

農林水産常任委員会の委員長として、農業や漁業の振興に力を入れている松崎太洋県議（柏市選出、2期）はこのほど、高病原性鳥インフルエンザに罹患した鶏の処分などに当たっている作業員のもとを熊谷知事とともに訪れ、処分の進行状況を聞くとともに、昼夜通して作業に当たっている県職員らをねぎらいました。



作業員の労苦をねぎらう松崎県議

今年1月12日以降、県内では銚子市で6例、旭市で7例、匝瑳市で2例の計15例の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが連続して発生、計約339万羽の殺処分や鶏舎の消毒などが進められてきました。

鶏の殺処分や埋設・焼却処分にあたるのは県職員を始め自衛隊員、民間委託の作業員、地元自治体の職員らで、交代制で昼夜通して24時間、防疫作業にあたっている県職員は延べ1万人を超えました。

現地対策本部が置かれている匝瑳市の「のさかアリナ」を訪れた一行は、担当から作業の模様や防疫作業の進捗状況を尋ね、さらに、作業に出かける職員一人ひとりに激励の言葉をかけました。

2020年12月、翌年4月の約458万羽に次ぐ規模の鳥インフルエンザ発生に、熊谷知事は「千葉県での対応は限界。県庁のあらゆる事務作業に支障が出ている」として、国に人員増体制見直しを要望しました。

笹川博義農林水産副大臣とのオンライン会議で、笹川農林水産副大臣は、「真摯（しんし）に受け止めたい。最大限の人的派遣ができるよう努めたい」と答えました。



都市軸道路の早期完成を熊谷知事に陳情する松崎県議

都市軸道路利根川橋梁（仮称）



国土交通大臣宛ての要望書提出に立ち会った松崎県議（右端）

国交省に新規事業化要望

松崎県議は都市軸道路の早期実現へ、熊谷知事や大井川茨城県知事とともに国土交通省を訪れ、道路建設の焦点となっている都市軸道路利根川橋梁（仮称）の新規事業化を要望しました。

都市軸道路は、埼玉県三郷市から千葉県流山市・柏市西部、茨城県守谷市・つくばみらい市を通り、茨城県つくば市に至る約30キロメートルの都市計画道路で、つくばエクスプレスと並行して建設

●県政や柏市のまちづくりに関するご相談はお気軽にどうぞ

松崎たかひろ 県議事務所

〒277-0005 柏市柏3-7-21 椎名ビル605号 TEL.04(7168)0966

設され、道路版つくばエクスプレスとして開通が待ち望まれています。

柏市、流山市、つくばみらい市、守谷市の市長らとともに国土交通大臣宛の要望書提出に立ち会った松崎県議は「千葉県と茨城県の交流が進み、災害時の緊急輸送道路としても期待される」と、都市軸道路の完成に思いを馳せていました。

松崎委員長

常任委員会を円滑進行

松崎太洋県議は、農林水産業に係る課題の審査及び調査を行う農林水産常任委員会の委員長として、2月定例会県議会で農林水産業の生産基盤の整備、農林水産物の生産及び流通の安定など多岐にわたる委員の質疑と県担当課長らの答弁を差配し、委員会の円滑進行に力量を発揮しました。松崎委員長は司会で行われた農林水産委員会での質疑応答を抜粋して紹介します。

2月定例会県議会農林水産常任委員会



農林水産常任委員会の司会進行を行う松崎委員長

海浜地域の鳥インフルエンザ
養鶏農家再建へ支援を

質問 海浜地域で高病原性鳥インフルエンザが発生した鶏舎の形状はどうであったのか。また、鶏舎の形状による発生メカニズムはどうか。

畜産課長 今回1月以降発生した15件中、ウインドウレス鶏舎が12件、セミウインドウレス鶏舎が2件、開放式鶏舎が1件となっています。鶏舎の形状と発生の関連性については、野鳥小動物・

ほこり等により感染が広がった可能性が疑われますが、現在、県職員も加わって、国が疫学調査を行っているところで、その結果を待っております。

質問 今回、同一地域での連続発生となったが、どのようなまん延防止策を実施したのか。

畜産課長 まん延防止対策については、消毒ポイントの設置や路面消毒などに加え、希望のあった養鶏農家へ

要望

引き続き、対策をお願いするとともに、海浜地域は、養鶏が盛んなことから、養鶏農家の再建に向けて、しっかりと支援していただきたい。

海洋人材確保・育成センター
水産業の担い手確保

議会を設立し、その協議会が運営することを予定しています。

質問 海洋人材確保・育成センターの開設により、新規漁業就業者への支援にどのように取り組んでいくのか。

水産課長 新規漁業就業者の支援については、従来は短期漁業研修やインターンシップ等を県が実施し、長期漁業研修や一定期間の「お試し就業」等を千葉県漁業協同組合連合会が実施するなど、県と県漁連が役割を分担して取り組んできましたが、今後は、海洋人材確保・育成センターが就業相談から独立までの伴走型の支援を行うこととなります。

要望

「水産県千葉」という以上、海が変わってもそれに対応していかざるを得ないと思う。漁業を取り巻く切ない環境の中で頑張ろうという人

質問 海洋人材確保・育成センターはどのように運営するのか。

水産課長 海洋人材確保・育成センターは、県、公益財団法人千葉県水産振興公社及び千葉県漁業協同組合連合会などからなる協

達がいるので、県には力を入れて施設整備並びに関係

飼料用米の生産
「耕畜連携」定着を

質問 畜産農家と連携した飼料用米の取組について、県として新たな支援が必要と思うがどうか。

生産振興課長 県内では畜産農家と連携した飼料用米の生産が盛んな地域もあり、こうした耕畜連携の取組を定着させることは重要であると考えています。

県では飼料用米の取組に對して、国の交付金に上乗せして助成するほか、直播などの省力化や肥料の低減など生産性向上の取組を行う場合には、県で使途を設定できる国の産地交付金の対象として支援しているところです。

今後は、畜産農家と稲作農家が連携した地域内流通の取組を、新たに産地交付

要望

金の支援対象に加える方向で検討を進めてまいります。日本人にとって米は重要な食料で、将来、食料不足になった時にはなくてはならないものであり、しっかりと生産をこれからも続ける必要がある。そのため、基準価格的な米価は1万6000〜2万円くらいだと思うが、そういったものを算定しながら、県としてどういったことを施策としてすればいいのか、国へどういった要望をすればいいのかということをつかりとやってもらいたい。

また、高く売れる米を千葉県としてほしいので、是非、その開発にも力を注いでもらいたい。



梨を鳥害や雹から守る多目的防除網

梨の防災網整備
134戸から補助申請

質問 気象災害に強い果樹産地支援事業の実施状況はどうか。

生産振興課 県では、梨農家の多目的防災網の積極的な整備を促すため、令和4年度から6年度までの3年間に限り補助率を高めて支援してきたところです。

これまで、14市町、延べ134戸の農家から申請があり、年度末までに約63ヘクタールの整備が見込んでいます。

質問 多目的防災網の整備について、今後どのような

に支援していくのか。

生産振興課長 多目的防災網の新規整備については、これまでも国の事業の活用を進めるとともに、国の対象とならないものについては、県の補助事業により支援してきたところです。

また、多目的防災網や設備の老朽化に対しては、令和7年度当初予算案において、新たに「果樹産地強化支援事業」として、再整備にかかる経費への補助金を計上しました。